

共立メンテ中国客つかむ

ビジネスホテル「ドリーミン」を展開する共立メンテナンスの株価が持ち直してきた。宿泊客の1割近くを占める韓国からのインバウンド（訪日外国人）の減少が警戒されたが、中国などからの個人客が増え、客室稼働率は90%以上を維持しているもようだ。外国人を意識した和風の新業態も軌道に乗ってきた。

ホテル事業 韓国人の減少補う



7月にオープンした5棟目の「野乃」(東京・浅草)

野乃を選んだ理由を聞いてみた。北京から来た25歳の女性「予約アプリで『清潔で温泉付き。和風の内で、レビューを見たら評判がユニークで良い』と価格が高かったから即刻予約した」と話した。10組はすべて「携程旅行網(シートリップ)」、「ブックینگ・ドットコム」といったアプリ経由で予約した個人客だった。野乃は多少の料金差よりもレビューを重視して選ぶ個人客らを意識して企画した新業態だ。客室はすべて畳敷きで、内装は和風に統一した。価格帯はドリーミンよりやや高い1泊1万円前後だが、これまでのホテルとは異なる経験を提供する。実際に外国人には好評で、シートリップでは5点満点で4・9を付け、レビューには「気に入った。次も使いたい」といったコメントが付いている。

和風・温泉…高評価でこ

野乃は2016年の鳥取県境港市を皮切りに東京・浅草まで5棟開業しており、2022年3月までにさらに8棟増やす計画だ。中国人などの日本観光は大型バスによる団体旅行から自分で旅程を立ててホテルを予約する個人旅行にシフトしてきた。香港の中国系客でカバードの減少を中国、台湾、アナリストの目標株価は平均で6105円と、昨年6月に付けた上場来高値(6370円)に近い水準。19年4〜9月期決算などでホテル事業の伸びが確認されれば、上値の余地はありそうだ。(田中嵩之)